平成２５年度に生ごみ処理機等購入費助成を受けた方に対するアンケート結果 （２６年度実施）

１　調査対象

平成２５年度に購入助成を受け、生ごみ処理機等を購入した７４人

- 電動生ごみ処理機は、生ごみを電気熱で乾燥させてから、粉砕して減らす（乾燥式）、生ごみを電気で保温しながら、かく拌して微生物により分解し減らす（バイオ式）
- コンポストは、土の上に設置し、常温で生ごみを微生物により分解して減らす方式
- 密閉式容器は、屋内に置き嫌気性微生物により分解し、液肥と堆肥を取り出す方式

２　調査方法

郵送によるアンケート用紙の送付及び回収

３　回答数

７４人（回答率８５％）

- 電動生ごみ処理機購入費助成者１４人中、１１人から回答（回答率７９％）
- コンポスト等購入費助成者７３人中、６３人から回答（回答率８６％）

４　調査項目

現在の使用状況、堆肥化の成否、臭気・音、完成した堆肥の利用、虫の発生、機器の使用と日常生活の変化、購入後の感想、工夫した点や気がついたこと

５　結果概要

１）現在の使用状況

- 電動生ごみ処理機は、11 人中、１００％にあたる１１人が使用中である
- コンポスト等、６３人中、９５％にあたる６０人が使用中である

２）堆肥化の成否

- コンポスト等、６３人中、８６％にあたる 54人が「うまくいった」と回答
  一方、１３％にあたる8人が「うまくいかなかった」と回答
- 電動生ごみ処理機は設問なし

３）電動生ごみ処理機での臭気・音

- ２７％にあたる３人が「気になる」と回答
- ７３％にあたる８人が「気にならない」と回答
- コンポスト等は設問なし

4）電動生ごみ処理機での乾燥後の処理物の利用（複数回答）

- １８％にあたる２人が「土や落ち葉と一緒に寝かせ、堆肥完成後、家庭菜園やプランターなどに利用している」と回答
- ７３％にあたる８人が「そのまま土に入れ、家庭菜園やプランターなどに利用している」と回答
- 「人にあげている」との回答は、０人
- ９％にあたる１人が「燃やせるごみに出している」と回答
- コンポスト等は設問なし

5）生ごみ処理機等を使用して、日常生活で変わったこと（複数回答）

ア　食料品の買い過ぎに注意するようになった

- 電動生ごみ処理機は、「はい」との回答無し
- コンポスト等は、２１％にあたる１３人が「はい」と回答

イ　調理のとき、生ごみを多く出さないように気をつけるようになった

- 電動生ごみ処理機は、２７　％にあたる３人が「はい」と回答
- コンポスト等は、３８％にあたる２４人が「はい」と回答

ウ　食べ残しが出ないよう、食事の作り過ぎに注意するようになった

- 電動生ごみ処理機は、９％にあたる１人が「はい」と回答
- コンポスト等は、４１％にあたる２６人が「はい」と回答

エ　食品以外でも、使い捨て商品や、不必要な安売り品などを買わないようになった

- 電動生ごみ処理機は、９％にあたる１人が「はい」と回答
- コンポスト等は、２１％にあたる１３人が「はい」と回答

オ　ごみの発生・処理問題、リサイクルに興味を持ち、家族などで話す機会が増えた

- 電動生ごみ処理機は、１８％にあたる２人が「はい」と回答
- コンポスト等は、３２％にあたる２０人が「はい」と回答

カ　今回の購入前から、上記のアからオまでのことを、１つ以上実践してきた

- 電動生ごみ処理機は、６４%にあたる7人が「はい」と回答
- コンポスト等は、３７%にあたる２３人が「はい」と回答

6）購入後の感想（複数回答）

ア　使用方法がよくわからなかった

- コンポスト等は、3%にあたる2人が「はい」と回答

イ　別のタイプも検討すべきだった

- コンポスト等は、１０%にあたる6人が「はい」と回答

ウ　容量の選定ミス　（小さすぎた・大きすぎた）

- 電動生ごみ処理機は、「はい」との回答無し
- コンポスト等は、１３%にあたる8人が「はい」と回答

エ　内部の洗浄が面倒である（電動生ごみ処理機のみ）

- 電動生ごみ処理機は、４５%にあたる5人が「はい」と回答

オ　満足している

- 電動生ごみ処理機は、９１%にあたる１０人が「はい」と回答
- コンポスト等は、７５%にあたる４７人が「はい」と回答

7）使用に当たって、工夫した点や気がついたこと（機種別）

電動生ごみ処理機

ア　機器の使い方に関する記述

- 使用時には、風雨にさらさないように注意している
- 深夜電力で 23 時以降に使用している
- 完全に細かくなるように卵の殻は砕き、皮はできるだけ短くしてから入れている
- ３日分ぐらい生ゴミをためて処理している

イ　臭気に関する記述

- 車庫兼物置に設置しているため、臭いは全く問題ない。
- コンポスト等では臭いが強いとの話で、電動生ごみ処理機を購入使用したところ、全く臭いがなかった

ウ　その他の記述

- 生ごみを、そのままゴミとして出す場合、臭いや水もれが気になるが、生ごみ処理機があると、臭いなどが気にならないので、ごみ袋がパンパンになるまで貯められるため、急いでゴミの日に出さなくて良いメリットがある。
- 生ごみ処理機を利用し家庭菜園の収穫として食卓に上り明日の活力の源にとなる実に素晴らしい機械です
- 以前に容量の大きいものを使用していたが、臭いと排気に含まれる粉塵がひどかったため車庫に置いていました。今回の製品は静かで、何より臭い、粉塵が発生しないことから、大変重宝しています。

コンポスト等

ア　現在、使っていない理由

- きつねが来て穴を掘ったりした

イ　生ごみ堆肥化がうまくいかなかった理由

- 生ごみの残骸が残っている、1 年間で堆肥化するのは難しいと思う
- 虫が発生し、カビも発生した
- 早く腐らなかった
- ねずみが発生し、食い荒らす
- ペースト状になる
- 蠅が多く、蛆が発生してしまった
- まだ堆肥として使える状況ではないため

ウ　虫の発生に関する記述

- 定期的な切り返しをする
- 生ごみを入れるたびに土をかぶせ、その時以外は常にフタを閉めておいた
- 蠅対策として蛆虫の時に熱湯をかける
- 生ごみを入れたら、土をかけている
- 生ごみを小さく切って水気も切って、発酵剤を撒いた
- 殺虫剤を使用した
- 虫の発生は自然であり、特に気にならない
- 生ごみ防臭剤をフタの裏に入れると虫が来ません
- 穴を掘り、生ごみを入れて薄く土をかける

- 虫は、どうしても出るので困った
- 蠅がはいらないように注意している
- 別に対応等していない
- 草むしりした時に草をコンポストに入れたり、土をかぶせたりした
- 魚の生ごみ、野菜くずを増し、発酵菌を増やした
- 一定の生ごみが溜まったら土をかぶせている、枯葉のある時期は、枯葉を間にはさみ虫の発生を抑える
- 石灰の散布
- 農薬を多めにかける
- 落ち葉や石灰など、生ごみを多めに撹拌します
- 頻繁にかき混ぜる
- フタをしっかり閉め、発酵促進剤を混ぜる
- バポナを使用
- 畑の土を入れる
- 生ごみ発酵促進・防虫脱臭剤を使用して、不快害虫の発生防止を行っている
- 改良剤を入れた
- 発酵剤・うじ殺しを投入
- 米ヌカを水気が多いと感じた時にかけた
- コンポスト用防虫剤を使用し、野菜類の生ごみしか入れない
- 生ごみを投棄してから、ピートモスを被せた
- 肉や魚はいれない
- オルトラン 1000 倍液を作って、ジョウロで撒く
- 繊維製品防虫剤パラゾールをネットに入れて吊るしている
- 「生ごみアップ Z」を堆肥化促進に使用している
- フタを開ける時間を短くして、時々防虫スプレーをしている

エ 機器の使い方に関する記述

- 設置場所についてローテーションできるように事前に検討しておくべきだった
- キツネなどが掘り返すので、ブロックなどで縁を抑えた
- 強風時にフタを飛ばされた事があり大変だった
- 大きさに合わせて穴を掘り、半分位埋めて使用している
- 数を増やし一杯になれば、1～2年保存する
- 2個併用し、捨てる種類を分けるようにする
- 年に2回、場所を移動している
- 1 度に多く入れないように工夫した
- 毎年設置場所を変更して使用している
- 隣の住宅に迷惑をかけないよう、設置場所について工夫しました
- 米ヌカを入れ、こまめに設置場所を変える

- ２つ使用して、１つは生ごみ専用、もう１つは秋に落ち葉を拾ってきて、米ヌカを入れてフタをせず気がついた時に雨水も集めて入れている
- ２個あれば、交互に使えるので便利です。

オ 日常生活の変化に関する記述

- ごみステーションに出す時に生ごみが入ってないと軽くて楽です
- 家庭菜園が楽しみになった
- 菜園の不良品は、土に返すよう心がけている
- 生ごみをコンポストに入れると、ごみが減らせるので、ごみ出しの回数が減り、楽になった
- 生ごみをごみとして出すことは少なくなった
- 畑の肥料として、生ごみは全てコンポストへ入れる
- 生ごみの水切をすることを心掛けるようになった
- 生ごみは、ほとんどコンポストに入れるようになった

カ その他の記述

- 生ごみが腐って少なくなるので、助かります
- 野菜が良く育ち土が肥えているので大変良い
- 生ごみは、春から秋までは庭に穴を掘って埋めており、コンポストは冬季だけ使用しています
- ３～５個を土地の中で回転して使用すれば良いと思うので、何度でも購入助成があればいいと思います
- コンポストの使用にて、良質の堆肥ができ、庭や家庭菜園にて新鮮で安全な旬な味の野菜をつくり楽しんでおります
- 生ごみは、全く出していません。全てコンポストの中へ大切に入れています。生ごみが全く出ないことに気が付きました
- 冬季間の積雪でコンポストは埋もれるために活用できないので、経済的に許せるなら、電動式にしたい
- 冬の間は使用できていない
- 特に黒色は、他色より効果がいいようです
- 既にコンポストを利用して成果をあげている方の経験等を紹介して欲しかった
- 以前からコンポストを使っていたが、フタが劣化して割れたので、フタを交換したかったが、販売していないようだ、フタ単体でも販売して欲しい

６ 総括

1) 生ごみの減量について

購入者は、完成した堆肥を家庭菜園などに利用している方が多く、家庭から出る生ごみの減量につながっており、リサイクル意識の向上や日常生活が変化した、との記述もみられ、購入費助成の目的は達成されたものと判断される。

2) アンケートから導き出される注意点

ア　電動生ごみ処理機

過去に使っていた方が、過去に使用していた処理機と比較して、音が静かになり、臭気がしなくなったとの回答があり、性能が向上しているようである。機種の選定や設置場所については、事前に、それぞれの特徴を考慮する必要がある。

イ　コンポスト等

小動物にコンポストを荒らされたり、虫の発生などへの対策や、臭気、発酵を促進するための工夫が多数寄せられていたので、参考にする。

3) 購入・使用にあたって

ア　電動生ごみ処理機（乾燥式）

多くの機種が屋内用となっており、購入前に置き場所があるかを検討する

水を切ってから乾かした生ごみを入れ、深夜電力を活用すると電気代が節約できる。

イ　コンポスト等

購入前に、置く敷地を検討すべきである。

購入後に、土を掘って、コンポストを低く設置する必要がある。

生ごみを入れたら、すぐ上から土をかけた方が良い（場合により、発酵促進剤、防虫剤が必要）

肉や魚、魚のアラを多く入れると臭くなる。野菜類のみだと余り臭くならない。

骨や貝殻、とうもろこしの芯などは、分解されない。

処理物が熟成したときは、コンポストを外し、深く土をかけるか、石を置いた板を敷くなどして、その場所が小動物に掘り返されないようにしてから、設置場所を移動させる必要がある。

※いずれの機器も、使用にあたっては取扱説明書に書いてあることがらをよく守り、きちんと維持管理して使い続けることが、ごみの減量化につながることになる。

千歳市　市民環境部　環境センター　廃棄物対策課　資源循環推進係

066-0012 北海道千歳市美々758 番地 54.　電話 0123-23-2110.　FAX 0123-23-2492